

すいた市民新聞

2005年春号
発行：吹田市労働組合連合会(吹田市労連)
吹田市泉町1丁目3-40
TEL06(6386)4428
発行人 岩根 良

吹田に巨大トラックターミナルが?!

1日1000台のトラックが吹田じゅうを走り回る?

大気汚染 騒音 振動 市民の不安いっぱい

吹田市に求められる住民参加と合意

今でも四六時中騒音と振動に悩まされている

松ヶ鼻自治会会長 三谷 鎮哉さん(元町)



JR沿線に面している当自治会は、東海道線の線路から20〜30mしか離れていないところなので、四六時中股々(いんいん)と聞こえてくるその騒音と振動は、安眠を妨害します。そのことは子育て中の家庭にとって、子どもの健全な発育を阻害しかねない問題にもつながります。梅田貨物駅が来るようなことになれば、さらに問題は深まります。安心・安全のまちづくりのために、梅田貨物駅移転反対の英断を、是非お願いします。

吹田市にとって何の利益もない計画、環境悪化は市内全域に

藤白台A棟自治会会長 立山 清弘さん



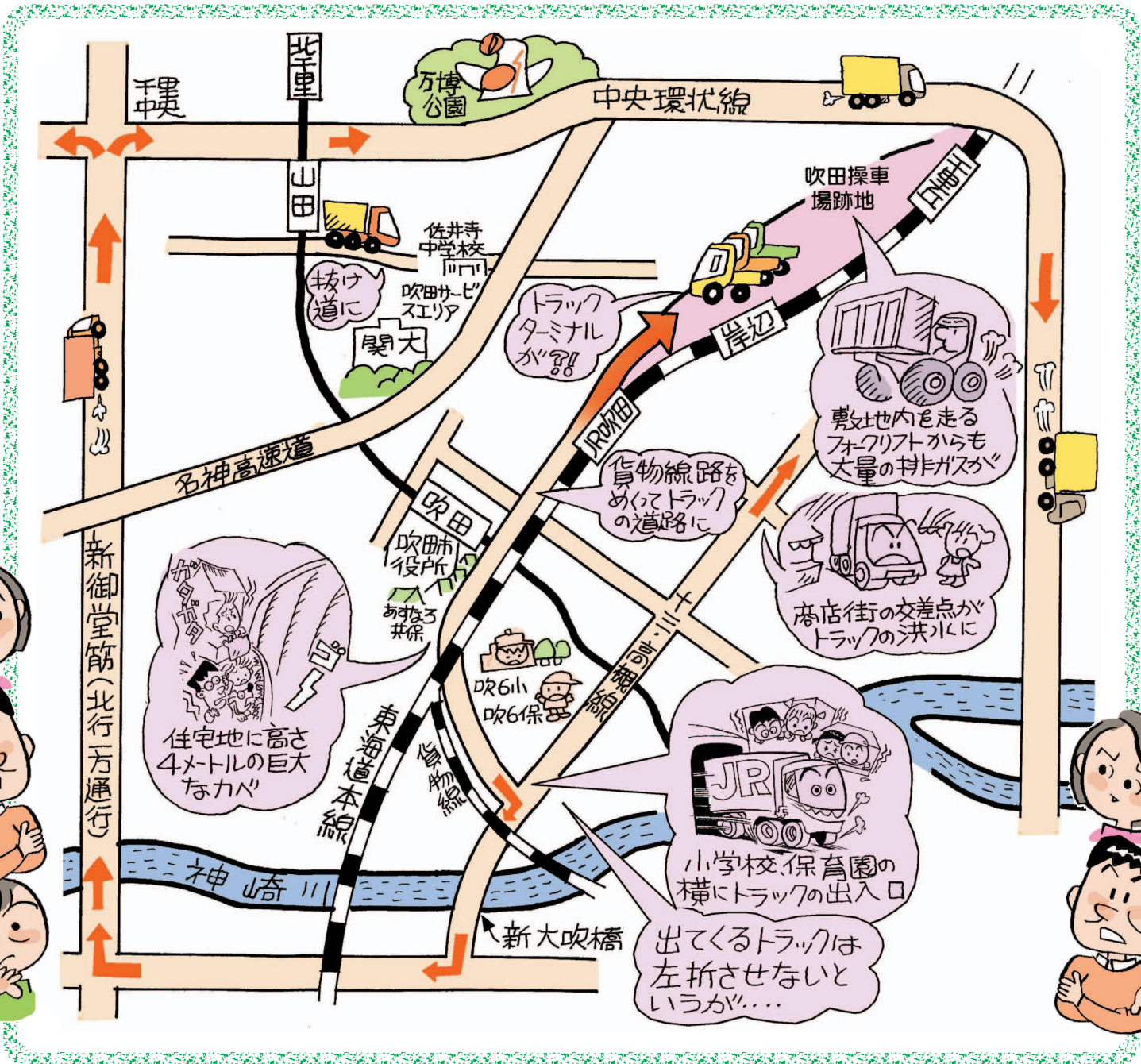
移転することそのものに問題がありすぎます。関連予算が吹田市に配分されるわけでもなく、公害だけが拡大され、吹田市にとって何の利益にもなりません。トラックは、吹田市を囲む幹線道路を通り、市内全域を抜け道として走り回り、大気汚染は市内全域の問題となります。大気汚染は目に見えるものでもなく、数年、数十年経って影響がでてくるものです。公害は起こる前に止めるしかありません。



いくら「低公害車」のトラックでもディーゼル車である以上、排ガスをまきちらします(写真は東大阪市のトラックターミナル付近)

JR大阪駅北側の梅田貨物駅(梅田北ヤード)の機能の半分を吹田操車場跡地へ移転し、トラックターミナルを建設する計画について、事業者である鉄道建設・運輸施設整備機構(以後「JR機構」)は吹田市に環境影響評価書を提出しました。これは、吹田市環境影響評価条例に基づいて、今後、3月25日まで4日間、市民意見書の受付が行われます。ところが、今回JR機構から提出された「評価書」では、大気汚染や騒音、振動などの防止について、あいまいな表現も多く、住民からは「これでは環境悪化を防ぐことにはならない」など、不安の声が広がっています。

「梅田貨物駅の吹田操車場跡地への移転に関する基本協定書」(1999年1月20日 大阪府・吹田市・摂津市・日本鉄道建設公団(現JR機構)・日本貨物鉄道株式会社の5者で締結)には、「環境を悪化させないような対策を講じる」「住民との円滑な合意に努める」と明記されており、「住民合意」なしに移転することができない」となっています。吹田市は、この機会に住民の声を十分に聞き、その内容に基づいて「住民合意」による対応が求められています。



「環境影響評価書」への 市民意見を出しましよ!

ぜんそく患者には、命を削るのと同じ

ほすこ 蓮子 じんぞう 甚蔵さん(高浜町)



私は、ぜんそくを患っています。1日1000台のトラックが走れば、いくら規制をしても空気が汚れるのは間違いありません。トラック専用道路を認めることは、私たちの命を削ることと同じです。また、今でも吹田ではぜんそく患者が増えていると聞きます。ぜんそくで苦しむ人をこれ以上、増やさないでください。

子どもたちが安心して住める町にしてください



中村 靖代さん 眞優ちゃん(2歳) 真希ちゃん(寿町)

小学校と保育園の近くに1日1000台ものトラックが通る専用道路の出入口がくる計画に吹田市が反対と言えないのはおかしい。JRも梅田の方が便利であるのに、わざわざ吹田に移転させることも理解できません。排気ガスの影響は体力のない小さな子どもに影響が大きいとも聞きます。大型車両はもちろんのこと、交通量が増えると交通事故も心配だし、将来を担っていく子どもたちが安心して住める町にしてください。

大気汚染・振動・騒音、住民の不安は大きい

泉町1丁目自治会会長 藤井 幸雄さん



列車の騒音対策として、継ぎ目の少ないロングレール化をこれまでもJRに要求してきましたが、未だに実現せず、不信感が広がっています。もともとぜんそく患者がこの地域には多く、トラック専用道路ができる大気汚染・騒音・振動が今よりもひどくなるのではないかと、大きな不安があります。公害患者の苦しみを繰り返してはなりません。こんな大きな問題については、市長が直接私たちと意見を交すべきです。

梅田貨物駅移転問題について
市民が意見を出せる最後の機会です
ラストチャンス!

意見書の出し方⇒3月25日(金)まで市役所の地球環境課が受け付けています。

意見書の記入用紙は、地球環境課で配布されています。なお、3月11日(金)までは、交流活動館、千里・岸部・千里丘の各市民センター、コミュニティーセンター、花とみどりの情報センターで評価書縦覧とともに用紙を受け取れます。

「住民の財産」図書館を 民間企業に丸投げ？

山田駅前の公共施設の中に
民間委託方式による図書館新設計画がすすめられています。



これまで
どおり

だれもが公平に無料で利用できる図書館を

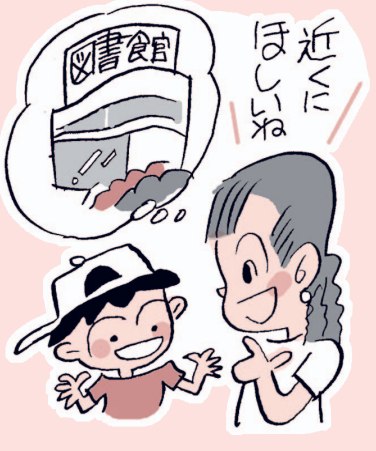
吹田市が運営してこそ

山田駅前図書館 建設問題

「山田図書館が山田駅前に移転される!？」前回の市民新聞(図書館版)の報道に対して「山田図書館をなくさないで」「千里丘・岸部地域にも図書館をつくってほしい」と非常に大きな反響をいただきました。地域住民の皆さんの署名運動も始まり、「図書館を考えるつどい」も山田地域、千里丘地域で行われました。住民の切実な要望をふまえて吹田市に働きかけた結果、今の山田図書館は残ることになりました。

しかし、山田駅前に新しい図書館をつくる計画は「千里丘地域に図書館を」という住民の声をおさざりにしたまますすめています。山田駅前図書館が「住民の財産」として公的な責任で運営されるのか、千里丘地域の住民の声にどうこたえるのか、新たな問題ももちあがっています。

次の図書館は
千里丘じゃ
なかったの?!



地域住民への説明が求められます

吹田市は、山田駅前に図書館を建設しようとしています。もともと「次は千里丘」というのがこれまでの考えだったはず。このことについて、いまだに千里丘地域の住民には何の説明もないのです。

2月5日千里丘市民センターで、千里丘地域に図書館を求める市民の皆さんがつどいを開催されました。会場いっぱい62人が参加され、「図書館をつくってほしい」という熱気あふれるつどいでした。

住民の皆さんからは、「マンション建設がすすみ子どもが増えてきている、子どもと本の出会いの場、子どもの居場所として図書館をぜひつくってほしい」「公共施設のない千里丘地域で、長年自動車文庫だけで我慢してきたが、もう我慢できない」「千里丘に図書館がないので、やむなく茨木市の図書館に行っているが、見るだけで借りられない、せめて茨木市の図書館を利用できるようにしてほしい」などの切実な意見が相次ぎました。

千里丘地域の皆さんの切実な声を置きざりにしたまま、山田駅前だけをすすめていいのでしょうか。

「すいた市民しんぶん図書館版」に
市民の意見が続々 (合計277通の抜粋)



どうですか、なのやまのつどいはこの本をかりました。こわろなんし(せえい)いやです。かてにきわなうてました。

●JR千里丘駅周辺に是非図書館を作りたいです。山二公民館などの施設と併設してオープンするなど、工夫して頂きたい。(千里丘下)

●今年5月に出産し、子どもに本をたくさん読んであげたいと思いましたが、図書館が近くにありません。自動車文庫は月に1回、それも1時間程度。もっとゆっくりと落ち着いた気持ちの中で本に触れたいと思います。月1回では、その日に用事があれば、無理です…。吹田は子どもにやさしいところときいていただけに、残念です。同じ地域に作ることも良いことかもしれませんが、図書館のない地域に作る方が重要ではないでしょうか？(新声屋下)

●娘がずっと引き込もっていましたがようやく外へ出られるようになりました。図書館が、一番行ける場所なのですが、山田図書館は遠くへ行けず、JRに乗って以前住んでいた高槻の図書館へ行っています。千里丘地域に図書館があればすごくいいなと思います。不登校の子や中退の子が、安心して行ける場所を身近に作ってもらえたらありがたいです。(千里丘西)

山田地域でも住民の意見・要望を
聞いて 住民参加の
図書館づくりを



(山田西3丁目在住)
酒井ミユキさん

山田駅前周辺では整備事業がすすみ、マンションが林立し、まちの様子は一変しています。これまでは高齢者の多いまちでしたが、これからは若い子育て世帯が増えることでしょう。千里山・佐井寺図書館を建設されたときは、住民の意見・要望を聞いてすすめられたそうですが、図書館を駅前に建設するのであれば、山田地域でもそのような住民参加の図書館づくりをすすめていただきたいと思えます。

「住民の財産」で
ある図書館の
運営は吹田市が
責任をもって

責任で運営されるのではなく、「民間企業に丸投げ」して運営されることになれば、「こんな図書館をつくってほしい」という住民の皆さんの意見を図書館づくりにいかすことはできません。

赤ちゃんから高齢者まで
さまざまな人が利用する
図書館はだれもが公平に無料
で利用できる施設です。吹
田市の図書館では、本や雑
誌、CD、ビデオの貸し出

吹田市の図書館には昨年、図書館協議会が設置され、住民の意思を反映する図書館運営がすすんでいます。行政が責任を持ってこそ住民の皆さんの願いをあつめた図書館づくりができるのではないのでしょうか。

誰もが安心して
利用できる図書館を



松本 哲朗さん
(山田東3丁目在住
音訳グループ
「竹の会」代表)

「竹の会」は、対面朗読や音訳テープの製作などで視覚障害者の図書館利用のお手伝いをしています。新しい図書館では、対面朗読室などを整備し、市が責任をもって「誰もが安心して利用できる図書館」にしてほしいと思います。図書館が民間で運営されても、障害を持つ方へのきめ細かい図書館サービスが本当にできるのでしょうか。山田地域にはたくさんの方々がボランティアが活動しています。これまでどおり、行政がボランティアを育成し、協力しながらのサービス展開していただきたいのです。

しほかに読書相談、視覚障害などを持つ方のための対面朗読やインターネット端末の利用サービス、赤ちゃん子どもに向けた読み聞かせなどを行っています。コスト優先の民間企業に図書館が運営されることになると、コストのかかるサ

サービスがある日、突然打ち切られるおそれもあります。市民のくらしや仕事、学習に役立つ情報を提供することによって市民の知る権利、学習する権利を保障する図書館づくりが求められています。

市民のみなさんとともにこんな図書館を

- 経験豊かな司書が図書館の利用をサポートします。
- 障害者や高齢者などの情報弱者に対するきめ細かな図書館サービス
- 地域内の公民館、学校、幼稚園、保育園、児童センター、高齢者施設、障害者施設などを図書館と結びネットワークづくり
- 青少年・子育て支援の拠点施設にふさわしい図書館サービスの拡充